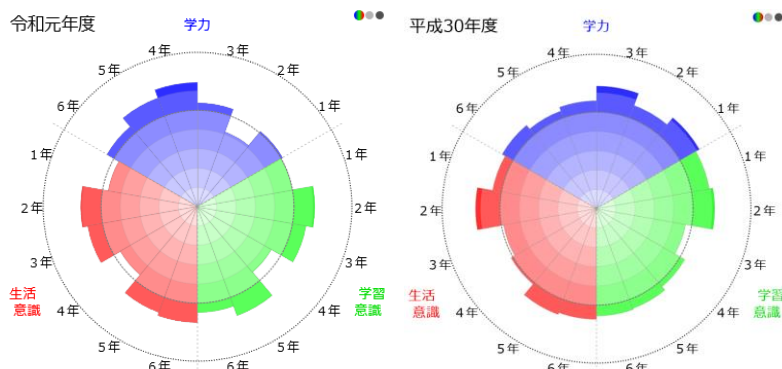


# 横浜市立笠間小学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

## 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



### (1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均より通過率が高い結果となった（2年は採点エラー）。

本校重点研究では、生活科・社会科を取り上げている。地域に目を向け、地域の教育力を活用することや、問題解決的な学びを通して、主体的な学びや協働的な学びの実現に向けて取り組んできた。

その結果、様々な資料や方法で調べようとする意識に高まりがみられた。他教科においても思考問題が高い通過率であったのは、資料や得られた事実を関連付けたり、考察したりする学びが効果的であったように思う。反面、学年によっては知識・理解で通過率が低い学年もあった。実験や活動では一人ひとりの体験を保障しながら、基礎的な理解を確実に定着させていく必要性も感じられた。

### (2) 学校生活の意識について

低学年の意識が高い傾向にある。「学校の授業は分かりやすい」「学校は安心できる場所である」「学校のきまりを守っている」という回答をする学年が多かった。学校や教室を肯定的に見ている児童が多いことが感じられる。また、「授業は分かりやすい」と「勉強は好き」の設問には相関関係があり、苦手意識をもつ教科は「分からなくて」「嫌い」という傾向にある。個々のつまずきをこまめに見取り、やり遂げる達成感をもたせたり、実際の体験や出会いを経験しながら実感をともなう理解をうながしたりして、全体として「分かるから好き」と意識を変えていくことが大切である。

また、「授業で自分の考えを発表しているか」「ノートを丁寧に工夫して書いているか」といった設問では、改善も見られるが全体的に低い傾向にあった。自己意識の調査の「人とかかわることが好きか」「人の気持ちを考えて行動しているか」といった設問でも意識が低く、まだ自分から進んでかかわるという部分に抵抗がある子が少なくないようだ。友だちと学び合うことで得られる、「みんなで学ぶと楽しい、自分の為になる」という経験をもたせていく中で、改善を図りたい。

### (3) 学習意識について

各学年・各教科の学習意識を見てみると、全体的に理数科の意識が高い傾向にある。

算数や理科の意識調査では、「その教科が好き」が高い上に、「自分の考えを説明しようとしている」部分でも意識が高く、バランスが良い。国語では、「好き」だし「大切だ」と思っているが、「めあてに沿って、段落のはたらきをとらえて読む」意識や、「めあてに沿って分かりやすく話す」意識が低い傾向にあり、毎時間のめあての明示とまとめ・振り返りをしっかり行うことで「何ができるようになったか」を実感できるような授業を目指したい。社会科では、社会科の勉強は「大切」で「生活に役立つ」と多くの子が思っている一方で、生活科も含めて「好き」「分かりやすい」の意識が低い様子がうかがえる。

上記の傾向は、答えが明確にある教科と自分の思いを表出する教科に関係しているように感じる。先に述べた「自分の考えを書いたり、話し合ったりしている」意識が低いことから、教師に向かって話す意識から、互いに意見を出し合いよりよい解決に向かう意識を育てたい。